

西伊豆健育会病院

看護部 TQMグループ 磯谷里佐 石田楓 船津八重 山本多美子

- 功 績** 第25回「医療の質改善活動」全国大会IN岐阜で活動発表し優秀賞を獲得した功績。
- 「マセレーター導入における排泄支援の見直し～パルプ便器使用の削減～」患者の個性に合わせた排泄支援がコスト削減につながった。
- 推 薦 者** 大村啓子
- 推 薦 理 由** 今回のTQM活動は当初「コスト削減」をメインテーマに取り組みを開始した。活動を展開する中で、メンバーが「患者のADLに合わせた支援をすることでポータブルトイレの使用が減り、ディスポパルプ便器のコストも削減できるのではないか？」というケアする者ならではの着想で、排泄支援に繋げた。TQMチームが主体となって病棟全体を巻き込んだ活動を展開し、成果を上げた。患者満足度も上昇した。

内 容

西伊豆健育会病院では、2022年度から流行した”バンコマイシン体制腸溶菌”VREが流行した為、様々な感染層対策として有効なポータブルトイレ便器の自動処理装置である”マセレーター”を導入している。導入から積極的に有効活用してきたが、課題として使い捨てのバルブ便器の費用がだんだんと上昇。コストの問題が挙がってきた。

むやみにマセレーターを使用するのではなく、患者の排泄支援に目を向け、個々の患者に適切な排泄支援が出来ているかを見直し、患者自立を促し、コスト削減を目指した。過去定めた”日中ポータブルトイレの使用の日安”を有効活用し、見直し、特に日中のポータブルトイレを使用している患者のトイレ誘導を積極的に進めていき結果に繋げた。

結果、個性のある排泄支援を行う事で職員が患者のベッドサイドへ伺う事が多くなり、患者とのコミュニケーションも増加しコスト削減も行うことができた。

この活動は消耗品の適正使用につながった他、患者満足度も底上げする事にもつながった取組であった。全国大会では優秀賞を受賞した為、外部評価も得たことからチームの取組を理事長賞に推薦する。

・活動前のバルブ便器使用枚数は1,502枚、コスト114,930円⇒活動後は573枚、コストは43,853円と61%削減と大きな削減効果を生んだ。